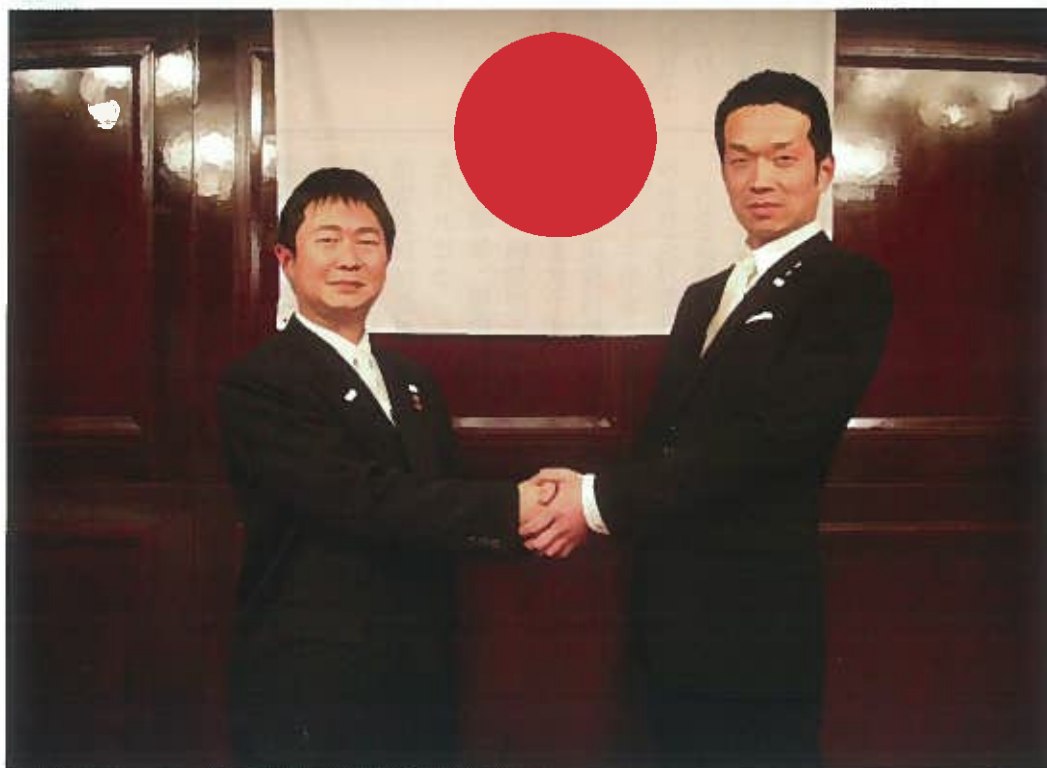


若竹

第六十号



愛媛県神道青年会 平成二十四年度臨時総会



遠宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

愛媛県神道青年会

事務局 〒791-8063

愛媛県松山市神田町1-7

三津 厳島神社内

TEL 089-951-1471

FAX 089-951-2220

URL <http://www.ehimeshinsei.net/>

巻頭言

新年度の御挨拶

愛媛県神道青年会

会長 清家 貞文



先ず以て、聖寿の万歳と皇室の弥栄を御祝い申し上げますと共に、各御社頭の御隆昌を御祈念致します。

常日頃より愛媛県神道青年会に対しまして格別なる御理解御協力を戴いております事、衷心より厚く御礼申し上げます。此度長曾我部信弥前会長の後任と致しまして、愛媛県神道青年会の会長職を仰せつかる事となりました。永年諸先輩方が築き上げてこられた青年会。その会長という責務の重さに改めて身の引き締まる思いでございます。一期二年、何卒宜しく御願ひ申し上げます。

さて当会におきましては昨年再発足四

十周年という節目の年を迎え、記念奉告祭、記念式典並びに祝賀会に諸先輩方を始め県内外数多くの御来賓の皆様にご参集頂きました事、また記念事業の一つでありました記念誌「愛媛の神々」発刊にありまして、県内宮司様、総代様、御関係の皆様方に多大なる御協力を賜りました事に対しまして重ねて御礼申し上げます。先輩方が培ってこられた礎を受け継ぎ、より強固な物にし、次世代に繋ぐ為に私達現会員は斯界の尖兵として「今何をしなければならぬか」そう考える時、会員の増加・組織力の強化が挙げられます。私は昭和四十八年生まれ、石油危機、団塊の世代です。日本人口・青年会の会員数・現役員数とも多い年代です。その世代が卒会すると会員数の減少が顕著にみられる可能性があります。当会会員該当者は現在七十五名です。実際には県内にいらつしやらない該当者も多く、県内在住者はさらに少ないのが現状です。先ずは該当者に対して各会への御出席を積極的に働きかけて参ります。一期二年のうち本年は助走期間と定め、年間の事業計画を見直し、会員出席率五割という目標を達成出来るよう、一人でも多くの会員に御参加頂けるように努めて参ります。

また今後、新しく県内神職になられた会員該当者に青年会の趣旨を御理解頂き、各種事業に御参加頂けるよう、お声を掛けさせて頂きます。具体的には各事業に新規参加五名以上を目標と致します。さらには県内の会員間の交流は勿論のこと、四国地区内また四国外の志を同じうする皆様との交流を通じて、神職としての資質向上、各種情報の共有、交流や連携を図って参ります。当青年会は四十歳までの若手神職の組織です。何事にも臆することなく積極果敢に取り組むことにより、会の組織が強固となり、進むべき方向が定まり、それに向かつて益々力が増大することを願っております。若さ故、走りすぎる事も多々あるうかと思いますが、行動を起こすためには先ず一歩足を前に進めることが大事と考えております。先輩諸兄の叱咤激励を頂き、斯界の更なる発展の為に進んで参りたいと考えております。結びにあたり、まだまだ浅学非才の身ではありますが、会長を始めとする新役員、また愛媛県神道青年会に対しまして御指導・御鞭撻を賜りますよう御願ひ申し上げます。新会長としての御挨拶とさせていただきます。何卒、何卒宜しく御願ひ致します。

愛媛県神道青年会 今期2年間の目標

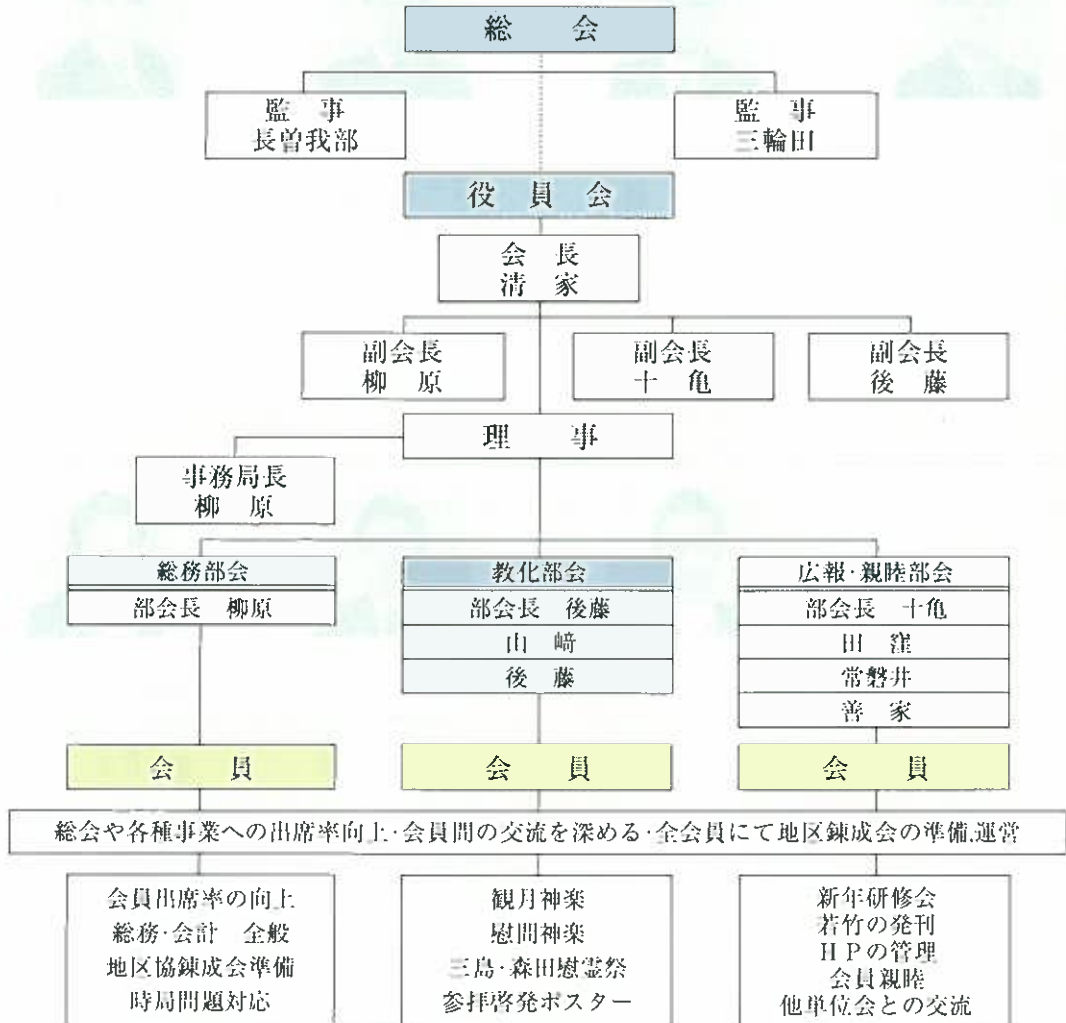
・会員出席率5割の実現

当会会員該当者は、現在75名(平成25年、4月1日時点)です。実際には県内にいらっやらない該当者も多く、現状はさらに少ないものと推測されます。今後は、まずこうした現状を把握することに努めるとともに、県内在住の該当者に対して各会への出席を積極的に働きかけて参ります。本年度を助走期間と定め、年間スケジュールを見直し、より幅広く参加していただけるよう、改革を進めます。平成26年度の定例総会では会員出席率が5割を超えるよう努力して参ります。

・各事業への新規参加者5名増

当会では、年々会員の高齢化が進んでいる上、各事業への出席においても特定会員に偏りが見られるのが現状です。我々は、この危機的状況を認識し、これまで各事業に一度も参加したことのない会員該当者に積極的に働きかけ、不参加会員の意見にも耳を傾け、新しい同志の参加を日指して参ります。今期は、各事業への新規参加5名増を目標として定めます。

平成25～26年度 愛媛県神道青年会 組織図



新役員紹介

会長

清家 貞文（セイケ 貞文）
昭和四十八年十一月三日生
八幡神社 攝宣
【一〇三】

一期一会、開縁を大事に努めて参ります。

副会長（教化部会長）

後藤 雅彦（ゴトウ マサヒコ）
昭和四十八年四月十七日生
伊豫豆比古命神社 権禰宣
【一〇四】

今期は副会長を仰せつかることとなり、甚だ恐縮でこの重責が務まるか不安を感じますが、諸先輩方より学ばせて頂きました経験に基づき、清家会長を補佐出来ればと志しております。

副会長（広報・親睦部会長）

十亀 雅史（ツグイ マサフミ）
昭和五十年六月三十日生
石鏡神社 権禰宣
【一〇五】

会員との輪と和と話を大切に、共に青年会を盛り上げて行きますよう。

副会長・事務局長（総務部会長）

柳原 永祥（ヤナギハラ エイシヨウ）
昭和五十九年十月二十五日生
嚴島神社 攝宣
【一〇六】

古より受け継がれた意義を感じ、発信しよう！



理事（親睦部員・時局担当）
善家 祐一（ニケンケ マサジ）
昭和五十二年三月八日生
龍王神社 権禰宣
【一〇七】

神嘗だからこそのやるべき事業展開を目指し、益々の発展に寄与したく存じます。



理事（教化部員・遷宮担当）
山崎 浩司（ヤマザキ コウジ）
昭和四十九年四月二十四日生
石鏡神社 権禰宣
【一〇八】

これからの神社界の発展に、多少なりとも関わられる事を嬉しく思います。



理事（広報部員）
常磐井 守道（トキツイ モリミチ）
昭和四十八年二月二十五日生
八幡神社 攝宣
【一〇九】

皆が参加しやすい環境づくりと情報発信力強化に努めて参ります。



理事（広報部員）
田窪 大朗（タクホ トモアキ）
昭和五十七年十一月十一日生
吹揚神社 攝宣
【一一〇】

少しでも沢山の参加を頂きますよう心願致します。



監事
長留我部 信弥（チヨウリウガベ シンヤ）
昭和四十九年四月十四日生
伊豫豆比古命神社 攝宣
【一一一】

監事とは、財産及び会務執行の監査を行う事、及び会の暴走を止める事。



監事
三輪田 尋道（ミワタ ヒロミチ）
昭和四十八年三月二十五日生
和志神社 権禰宣
【一一二】

諸先輩方の教えを基に、監事として役員会日に良きアドバイスが出来ますよう務めてまいります。



理事（教化部員）
後藤 正幸（ゴトウ マサユキ）
昭和五十七年七月二十六日生
高志川神社 攝宣
【一一三】

遠征活動、新界の発展のため頑張ります。

任期二年
自 平成二十五年四月一日
至 平成二十七年三月三十一日

「若竹」発刊六十号記念企画①
神社界はなぜありむら治子さんを推薦するのか

若竹第六十号という節目に併せ、時恰も第二次安倍政権下で初の参議院選挙を控えるこの時期に、改めて、僭越ながら述べさせていただきます。

ありむらさんが掲げておられる政策理念は、「教育」「絆・家族」「外交・防衛」にあります。これらは誰にも経済的利益がない項目であります為、そこに力を注ぐ国會議員さんは少ないのが現状でありましょうが、主権国家を創る礎となる必要不可欠な課題であることは、昨今の社会情勢を鑑みましてもご理解頂けることと存じます。各界が助成金を得られる、それによって票に繋がる、国會議員として生活が出来るといふ流れを求めない、しっかりとした国家観と正しい歴史観をお持ちでないと勤まらない課題であると存じます。



ありむら 治子 参議院議員

先日、神青協中央研修会に於いて、「維新」と主題を掲げ、三名の講師よりご講演賜った中

に、江戸時代の藩校と呼ばれた場所では、「立身出世」の為ではなく「地域の為に、国の為に何が出来るか」「礼儀を重んじること」を学ぶ為の場所であった。神風特攻隊として出兵し、戦死を免れた方に当時の状況を取材したが、「自分の目の前で家族を殺されたくなかった、一分一秒でも長く家族が生き生き出来るように」という気持ちで飛び立っていった。東日本大震災に於いて報道関係が報じなかった「自衛隊の災害復旧活動」に対して被災地の方々がどれくらい感謝の気持ちを持ったか、心強く感じたか。また、もしこの規模の震災が大都市で起こった場合、民主党政権下で縮小された現在の隊員数の不足、災害復旧等で使用される必要備品の不足。沖縄の基地問題での「オスプレイは危険だ」と報道されているが、「オスプレイはアメリカの精鋭部隊である海兵隊が先陣を切って最前線に投入される時に使用される目的であるのに、欠損の多い訳がない。沖縄に米軍基地が有り、オスプレイを導入されると太平洋戦略を企てる中国が困る為、沖縄住民を操っている」等、まさに当を得た研修会となりましたが、これらの問題に対処していく気概を持った国會議員と云えば「ありむら治子」さんではないでしょうか。

二期十二年、参議院議員としてご活躍をされた中に、皇室の尊厳護持に関する「女性宮家の問題点を追求」、史実と違ふ記載をしていた教科書に対し「領土に関する教科書記述を正常化」、妊婦さんと赤ちゃんを温かく見守る社会をめざし「マタニティマークを作成」等、我々が共感を得ることが出来る、多くの実績を挙げられており、神道の精神を国政にという信念で今後もご活躍されることでしょう。

我々神職が御神前で祈る「御皇室の弥栄」「国家安泰」「世界平和」。これらを弥遠永に祈り続け、御祭神の神威の発揚を願うことが神職の勤めであるならば、悠久の歴史の中で先人達が培ってきた正しい歴史・伝統・文化を次世代へ継承すべく「実践につとめて、以て大道を宣揚すること」を諸先輩方共に斯界の組織力を持つて対応致したく、ここに御支援・御協力に併せ御指導・御鞭撻の程宜しくお願い致し、拙文ではございますが、今夏の参議院選挙に於ける当会の決起表明とさせていただきます。

愛媛県神道青年会 会長

清家 貞文

新年正式参拝 臨時総会・研修会・互礼会報告



新春の余韻を残す一月二十四日、恒例の年頭正式参拝が愛媛県護國神社で行われました。長曾我部会長以下役員が揃って大前を拝し、昨年の感謝の誠を捧げ、国の隆昌と

平和、さらには今年一年の決意を護國の英霊に祈り、お誓い申し上げます。

その後、国際ホテル松山に会場を移して臨時総会が開催され、清家貞文新会長をはじめとする新役員十一名が承認されました。

引き続き同会場で行われた新年研修会の今年のテーマは「クレーム対応」。BS21ブライダルサービスのチーフアナウンサーである門田洋子先生、根岸絃子先生を講師に迎え、神社の危機管理として、近年増加するクレームにどう対応すべきかを講義いただきました。

研修会で強く印象に残ったのは、円滑なコミュニケーションのための心構えとして、相手からの依頼には「アサーティブな態度」をとるべきということでした。アサーティブとは、自分も相手も大切にしたい自己主張・表現の方法とのこと。例えば、何か難しい依頼をされた場合、「お急ぎでいらっしゃいますか？あいにく三時まで別の業務が入っておりますので、四時以降でよろしければ対応が可能です」といった具合に、相手の希望を最大限汲み取りつつ、こちらの主張もしっかり伝えることなのだそうです。

ともすれば、「やります」といったその場しのぎの服従的な態度をとってしまいがちですが、実行できなかった場合はトラブルがさらに拡大します。また、「今は忙しいので無理です」といった一方的



で攻撃的な態度をとるとさらに火に油を注ぐことになります。アサーティブな対応なら相手の要望に最大限応えつつも、こちらの状況も理解してもらうことができます。こうした対応の積み重ねこそがクレーム化を未然に防ぐだけでなく、さらなる信頼関係構築につながるのだと納得した次第です。社頭でのやりとりでも大いに参考にするべき接し方ではないでしょうか。

また、終了後に行われた互礼会では、愛媛県神社庁の十亀興美庁長様を始め、神社庁役員の皆様や青年会OBの先輩方をご来賓としてお迎えし、盛大に行われました。

先輩方と膝を突き合わせながら、これまでの取り組みやこれからの愛媛神青のあり方を語り合うことができたのは有難いことでした。我々も先輩方に負けぬように愛媛神青の活性化に取り組んで参ります。

《常磐井守道》

慰問神楽

平成二十五年 二月二十四日
於 新居浜市新須賀町 朝日保育園



「今日、園児達はちゃんと聞いていてくれるかな…楽しんでくれるかな…」
慰問神楽に行く道中、車の中でそう思いついながら会場に向かう私であった。
しかし「おはようございまーす！神様が来たー！」の元気な笑顔いっぱい園児達の挨拶に不安が吹き飛んだ。



雅楽や舞というと大人でさえなかなか聴いたことがない、見たことのない方が多いはず。しかし今回は園児達が相手ということで、その反応がどうか毎回ドキドキしながらの開催である。
神道青年会
十二名・巫女
二名・伊予神楽四名の参加の下、合田園長先生の挨拶、長曾我部神道青年会会長の挨拶の後に演奏が始まった。



新居浜市新須賀町は三丁目。ちょうど新居浜市営球場前にある朝日保育園が今回の会場であった。この保育園の園長先生は堀江神社・合田史宣禰宜様。快く慰問神楽開催のお返事をいただきその運びとなった。

【式次第】

- 一、悠久の舞
- 二、妙劔の舞
- 三、越殿楽
- 四、楽器紹介
- 五、大蛇の舞

悠久の舞の参入音声で何回笛を鳴らしても巫女が入ってこない…実はまだスタンバイが出来てなかった…というハプニングはあったが…(汗) 保育園の先生達も気がついたかも…(汗)

そんなハプニングも知らず園児達はちゃんと静かにお座りをして聴いてくれたのでとても感心した。

慰問神楽から日にちが経ったけど雅楽の音を忘れたかな？舞の記憶はあるかな？でもちよつとでも、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんに白慢してくれたいいな。そう思う今日この頃である。

最後にご協力を頂きました朝日保育園合田園長先生をはじめの各先生方、それからご遠方よりご参加頂きました伊予神楽の皆様には改めて感謝申し上げます。神道青年会の皆様、巫女の皆様もお疲れ様でした。

〈田窪 大朗〉

平成二十四年度神道青年全国協議会 中央研修会「高知」

主題「維新」
「立ち上げられ！現代の草莽の志士」

【期日】平成二十五年三月十三日

十四日

【会場】ザ・クラウンパレス新阪急高知

【主管】神道青年四国地区協議会

【担当】高知県神道青年会

去る三月十三日、十四日の両日に亘り、高知県に於きまして神道青年全国協議会中央研修会が、全国より三百四十一名の会員が参集し開催されました。



第一講では、志學館大學人間関係学部教授・鹿児島大学名誉教授の原口 泉先生より「幕末日本の人材育成」と題し講演をして戴きました。日本近世史・近代史がご専門の

先生は、薩摩藩や琉球の歴史にも大変造詣が深く、学術的論点よりお話されました。先生は、主として藩校を母体にここで学んだ若き志士達の実例をもとに、幕末・明治維新に名を馳せた坂本竜馬や西郷隆盛、大久保利通、小松带刀らの動向と歴史的な背景を考察され講話を進められました。また他の若き志士達の誇り高き精神と崇高なる思いを、当時の時代背景を交えながら解りやすく進めて下さいました。先生の講話の中で、一番印象深く憶えております事は、薩摩藩の教えの一つに「非常事態の際、すぐに行動しなさい」という言葉があったことです。この言葉の真意は、己の損得の考え無く、瞬時に如何に物事に対応出来るかということとです。この行動を執る事こそ「その人物」の品格を高める結果に結びつくと理解させて頂きました。また、日本の自然の美・その麗しき下で生かされている日本人の心と精神、茶道、思いやりの心は、世界にさらに発信され、共感されてゆくだろうともお話しされておられました。

第二講では、俳優・演出家・元自衛官の今井雅之先生より「維新と感謝」と題し講演をして戴きました。先生は、ここ二十年来、八〇〇公演以上に亘り、特攻隊の演劇舞台『THE WINDS OF GOD』を上演し続け、平成三年度文化庁主催芸術祭賞を受賞されました。先生は、特攻隊の演劇舞台『THE WINDS OF GOD』の上演にあたり、当時お元氣だった元特攻隊員ほぼ全ての方に、戦争時の心境・様子を具に取材され、この舞台を構成されたとおっしゃられていました。取材してわかったことは、特攻隊員の方々は先ず何よりも家族の幸せと無事、親や兄弟の一分・一秒の長生きの為に自身の命を戦闘機に委ね飛び立った、ということだつたそうです。元特攻隊の方々が、口を揃えたかの如く当時の心境をそう語ったことに、先生も「胸が締めつけられる思いだった」とおっしゃっていました。また戦後、日教組の取り組みの結果起こった現教育現場の在り様についても触れられ、直ちに改善すべきと語られておられ



ました。特に先生は、「愛国心」という言葉に対し、現代の若者の関心が乏しく、祖国に対する誇りを何故もてないのかと歎いておられたのが、印象に残っております。ここで一度、維新の意味について考えてみますと、思い浮かぶのが明治維新であります。これを例に取ると、本来の日本を取り戻し、新たな道を切り開くという事、即ち解体と再生になると思われまます。我々に課せられた使命と責務について、再認識させて頂きました。

第三講では、軍事ジャーナリストの井上和彦先生より「いま日本に迫り来る危機と自衛隊を忘れてはならない東日本大震災における自衛隊の闘い」と題し講演をして戴きました。先生は、過去に世界約四十カ国を歴訪され、安全保障についても調査・研究されていらつしやいます。お話の中では、特に東日本大震災における自衛隊員の並々ならぬ活躍について、語られておられました。震災によって心を痛め、日々悩み・苦しむ現地の皆さんにとつて、何よりも現場にて直接触れ合い、語り合い心の支えとなつた事や日本人特有の極め細やかな心遣いによる献身的なサポート、各自上部からの命令のみならず、各現場における判断・人命救助等、今思い起こしてみても私自身心

に沁みております。日米共同によるソウルトレイン作戦など国境を越えた、助け合いの気持ちに敬意と感謝の想いでした。今回の「維新」という大きな研修テーマに対し、先生方の独自の切り口と展開に講話の時間も瞬く間に終わった事を今でも憶えております。今一度先生方の教えを再認識し、職務の指針の一つとして活用させて頂きたく思います。

末筆に、今回担当としてご尽力頂きました高知県神道青年会の皆様を始め、関係各位に御礼申し上げます。
《山崎 浩司》

神道青年全国協議会 第六十五回定例総会



神道青年全国協議会定例総会に初めて参加しました。役員の任期満了に伴い、改選が行われる重要な会議です。総会では平成

二十四年度の会務報告、一般会計決算書報告、各種収入計算書報告、監査報告等があり、全項異議なく承認されました。そして大野清徳会長の退任挨拶では、東日本震災復興支援活動の話から、最後には涙しながらのご協力への御礼の言葉で締めくくり、会場からは割れんばかりの拍手が鳴り響きました。

続いて南坊城光興新会長より挨拶・活動方針の説明があり、副会長並びに理事・事業計画・予算案の承認を受けました。最後に総会決議が上程され、満場一致で採択されました。その決議文を記し総会報告とさせて頂きます。

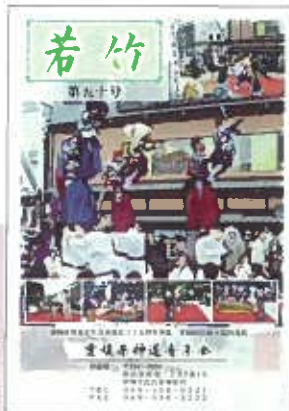
我々青年神職は、第六十五回定例総会にあたり、本年遷御を迎へる第六十二回神宮式年遷宮の更なる啓発に努め奉祝の気運を高めると共に、皇室の尊厳護持をはじめ、我が国の美はしい国風を破壊しかねない憂慮すべき諸問題への対応を積極果敢に展開し、以て民族精神の発揚に邁進せんことを期する。

右、決議する。
平成二十五年四月二十三日

神道青年全国協議会
第六十五回定例総会
《柳原 永祥》

第五十号

発行日：平成20年6月1日
 会長：十亀 博行
 ページ数：18
 <主な内容>【表紙】愛媛の
 伝統文化IN道後／第十四回
 同神楽（飯部町立麻生幼稚園）
 ／神青協中央研修会（千
 葉県）／ほか



「若竹」のカラー化は五十号を記念して行われました。表紙を飾ったのは、愛媛県神道青年会再発足三十五周年事業として行われた「愛媛の伝統文化IN道後」の様子。道後温泉本館前に於いて行われた当事業は、神社以外の会場で各種団体を招き、不特定多数の方を対象とした初めての事業でした。当時、当事業に関わった現役員によると、「いろいろ失敗や課題もあったが、何より感じたのは「達成感」。我々もこんな事業ができるという大きな自信になった」と力強い一言。我々も負けずに新しい事業に取り組んで参ります。

「若竹」カラー後十号の歩み」
 若竹は今号で六十号を迎えることができました。号を重ねることに誌面は充実し、五年前にはモノクロがカラーになるなど、先輩方のお力で紙面の充実が図られてきました。そこで、六十号を記念して「若竹」カラー後十号の歩みを振り返ります。

「若竹」発刊六十号記念企画②
 「若竹」カラー後十号の歩み」

第五十三号

発行日：平成22年1月1日
 会長：十亀 博行
 ページ数：12
 <主な内容>
 【表紙】神道青年全国協議会
 第十二回神道行法建設会／神
 道青年全国協議会創立六十四
 周年記念事業／第二十七回観月神楽
 の夕べ（三奈良神社）／ほか



しまなみ海道開通十周年を記念して、この年初めて行われたのが広島県青年神職会との交流親睦会です。初回のこの年は愛媛神青がホスト役でした。伊豫豆比古命神社にて正式参拝の後、親睦会へ。広島神青が十三名、愛媛県からは十九名が参加し、親睦を深めました。翌年、広島県にて第2回目が行われましたが、この交流親睦会は、他県神青との交流を促進していくきっかけとなりました。



第五十一号

発行日：平成21年1月1日
 会長：十亀 博行
 ページ数：14
 <主な内容>
 【表紙】第十四回全国職業
 学生追悼祭／国民大集会in
 愛媛／神宮式年遷宮研修会
 ／ほか



第五十二号

発行日：平成21年6月1日
 会長：十亀 博行
 ページ数：18
 <主な内容>
 【表紙】神道青年全国協議
 会第六十一回定例総会、周
 年事業賞受賞／第十一回
 同神楽（伊予郡松前町立古
 城幼稚園）／ほか



第五十四号

発行日：平成22年6月1日
 会長：十亀 博行
 ページ数：16
 <主な内容>
 【表紙】平成21年度神道
 青年全国協議会中央研修会
 （仙台）／第十二回同神楽
 （今治市桜井志々満保育園）
 ／ほか





第五十六号

発行日：平成 23 年 6 月 1 日
 会長：長曾我部 信弥
 ページ数：16
 <主な内容>
 【表紙】平成二十二年愛媛県神道青年会臨時社会／神道青年全国協議会「巫女のための神宮研修会」／ほか

第二十八回目となったこの年の観月神楽は、新居浜市に鎮座する宗像神社での開催となりました。美しく輝く中秋の名月の下で行われたこの夕べでは「浦安の舞」「式三番の舞」「越殿楽」など八つの演目を演奏。大勢の観客が拝殿前に集まり、大いに盛り上がりました。



第五十五号

発行日：平成 23 年 1 月 1 日
 会長：十亀 博行
 ページ数：12
 <主な内容>
 【表紙】三島由紀夫・森田必勝両烈士追悼四十周年慰霊祭／県外単位会交流視察会（広島県）／ほか



この年より斎場を愛媛県護国神社に移して行われたのが、「三島由紀夫・森田必勝両烈士追悼慰霊祭」でした。田内逸知副会長を斎主とし、愛媛県護国神社宮司小川純生様をはじめ、多数のご来賓の御出席のもと斎行されました。三島事件から約四十年。当慰霊祭を通じて、はじめて両烈士の祖国に対する想いを知る会員もあり、そういった意味でも非常に重要な慰霊祭となっています。



第五十七号

発行日：平成 24 年 1 月 1 日
 会長：長曾我部 信弥
 ページ数：14
 <主な内容>【表紙】第二十九回観月神楽の夕べ（護国神社）／監野郡智大社復興支援活動／「東日本大震災」復興支援ボランティア活動／ほか



第五十九号

発行日：平成 25 年 1 月 1 日
 会長：長曾我部 信弥
 ページ数：12
 <主な内容>
 【表紙】愛媛県神道青年会再発足四十周年記念事業 神護皇愛媛被災者慰霊祭／第九回野外体験視察会（興居島）／ほか



第五十八号

発行日：平成 24 年 6 月 1 日
 会長：長曾我部 信弥
 ページ数：18
 <主な内容>【表紙】愛媛県神道青年会再発足四十周年奉告祭／慰問神楽（ミドリ保育園）／ほか



第五十八号で報告されているのは、岩手県釜石市の根浜海岸にて催行された神道青年全国協議会主催の「東日本大震災物故者慰霊祭」の様子です。当日は、全国より百名近い会員が参集し、岩手県神社庁西館庁長様をはじめ地元の方々にもご参列いただきました。我々の活動は慰霊祭で終わりではありません。今後も東北への想いをもち続け、復興へ向けて積極的に関与していく所存です。

平成二十四年度 会務報告

平成二十四年

起 平成二十四年 四月一日
至 平成二十五年三月三十一日

四月 九日	神道青年四国地区協議会 中央研修会実行委員会 (長曾我部会長以下二名出席)	〔高知県 蕨の神社〕
十二日	平成二十三年度会計監査会 (長曾我部会長以下四名出席)	〔伊豫豆比古命神社〕
二十五日	第一回 役員会 (長曾我部会長以下十三名出席) 再発足四十周年奉告祭 〔井上副庁長以下御来賓五名御参列〕	〔愛媛県神社庁〕 〔全〕
全	〔祭主長曾我部会長・齋主田内副会長以下十三名奉仕〕 第四十一回 定時総会 (長曾我部会長以下二十五名出席)	〔全〕
全	懇親会 (長曾我部会長以下二十四名出席)	〔松山市 とり泉〕
二十七日	神道青年全国協議会 第六十四回定例総会 (長曾我部会長以下四名出席)	〔神社本庁〕
五月 八日	神道青年四国地区協議会 中央研修会実行委員会 (長曾我部会長以下三名出席)	〔高知県 蕨の神社〕
二十一日	第二回 役員会 (長曾我部会長以下十名出席)	〔石鎚神社〕
六月 一日	会報「若竹」第五十八号「発刊」 神道青年四国地区協議会 中央研修会実行委員会 (長曾我部会長以下五名出席)	〔伊豫豆比古命神社〕
七日	神道青年四国地区協議会 第一回 役員会	〔愛媛県〕

六月 十二日	(長曾我部会長以下五名出席) 神道青年全国協議会 沖繩県全戦没者慰霊祭 沖繩県愛媛戦没者慰霊祭 (愛媛県議会自由民主党 神道議員連盟明比副会長以下四名御参列)	〔沖繩県護国神社〕 〔沖繩県 愛媛之塔〕
十三日	第三回 役員会 (祭主長曾我部会長・齋主三輪田副会長以下五名奉仕)	〔八幡神社〕
十六日	第三回 役員会 (長曾我部会長以下九名出席)	〔愛媛県神社庁〕
二十五日	愛媛県神社庁 定例協議員会 (長曾我部会長出席)	〔愛媛県神社庁〕
七月 十八日	愛媛県女子神職会 第二十四回総会 (長曾我部会長出席)	〔白山神社〕
十九日	第四回 役員会 (長曾我部会長以下六名出席)	〔藤島神社〕
二十三日	神道青年四国地区協議会 中央研修会実行委員会 (長曾我部会長以下三名出席)	〔高知県 蕨の神社〕
八月 三日	日本会議愛媛県本部 〔皇室の伝統尖閣・沖縄防衛を考える愛媛県民集会〕	〔みゆき会館〕
六日	神道青年四国地区協議会 臨時役員会 (長曾我部会長以下五名出席)	〔徳島県 徳島護国神社〕
六日	神道青年四国地区協議会 第十八回 定例総会並びに研修会 正式参拝 定例総会	〔徳島県 徳島護国神社〕
七日	研修会「鎮守の社のこれからを考える」 講師 神宮技師 村瀬 昌之 先生 講師 文化の森学委員 芥木 靖 先生 (長曾我部会長以下八名出席)	〔全〕

二十一日

野外体験親睦会

〔松山市 興居島〕

〔長曾我部会長以下二十三名参加〕

二十十九日

神道青年全国協議会 夏期セミナー

〔國學院大學〕

三十日

【教育】日本人の心を正しく伝える為に

第一講「子供達に皇室をどう教へるか」

講師 松前町立岡田中学校 教諭

大津寄 章二 先生

第二講「お手本を持つ生き方」寺子屋のススメ

講師 株式会社 寺子屋モデル 代表取締役社長

山口 秀範 先生

第三講 パネルディスカッション

「未来を見据えた実践へ」

「今、青年神職がなすべき教化とは」

パネリスト

松前町立岡田中学校 教諭

大津寄 章二 先生

株式会社 寺子屋モデル 代表取締役社長

山口 秀範 先生

参議院議員

有村 治子 先生

神道青年全国協議会 会長

大野 清徳

コーディネーター

神道青年全国協議会 副会長

佐藤 文比古

〔長曾我部会長以下四名出席〕

神道青年四国地区協議会

第十五回 神道行法錬成会

〔長曾我部会長以下四名出席〕

神道青年四国地区協議会

第二回 役員会

〔長曾我部会長以下五名出席〕

〔香川県 八幡神社〕

〔香川県〕

十二日

十亀興美宮司の神職身分特級昇進を祝う会

〔松山金日空ホテル〕

〔長曾我部会長出席〕

十八日

参拝啓発ボスター発送作業

〔愛媛県神社庁〕

〔長曾我部会長以下十名参加〕

全 第五回 役員会

〔長曾我部会長以下十名出席〕

〔全〕

二十四日

第三十回 観月神楽の夕へ

〔四国中央市 三島神社宮司 大西 元宣 様〕

〔長曾我部会長以下十四名参加〕

二十六日

神道青年四国地区協議会

臨時役員会

〔高知県 ザ・クラウンパレス新阪急〕

〔長曾我部会長以下一名参加〕

二十七日

再発足四十周年記念式典

〔愛媛県 国際ホテル松山〕

記念式典

記念講演

演題「日本復活は教育の再生からはじまる」

「知・情・意、三位一体の学びで志士人物となれ！」

講師 松下政経塾一期生・東洋日本思想家

林 英臣 先生

祝賀会

〔十亀庁長以下御来賓十八名御出席〕

〔神道協大野会長以下県外御来賓三十五名御出席〕

〔長曾我部会長以下十二名出席〕

十月二十四日

第六回 役員会

〔和霊神社〕

〔長曾我部会長以下九名出席〕

愛媛県神社庁例祭並びに神宮大麻暦頒布始奉告祭

愛媛県神社庁定例協議員会

〔長曾我部会長出席〕

十一月二十日

第七回 役員会

〔伊豫豆比古命神社〕

三島森田雨烈士追悼四十二周年慰霊祭

〔愛媛縣護國神社〕

〔田内副会長以下九名奉仕長曾我部会長以下十二名参列〕

十一月二十五日

〔長曾我部会長出席〕

〔長曾我部会長以下五名出席〕

〔長曾我部会長以下五名出席〕

十一月二十九日

神道青年全国協議会 臨時総会

〔神社本庁〕

〔長曾我部会長以下四名出席〕

十一月 七日

神道青年四国地区協議会 第三回 役員会

〔高知県〕

〔長曾我部会長以下四名出席〕

神道青年四国地区協議会

第八回親睦ボウリング大会

〔ボウルジャンボ〕

〔長曾我部会長以下三名出席〕

十九日

第八回 役員会

〔伊曾乃神社〕

〔長曾我部会長以下九名出席〕

平成二十五年

一月 一日

会報「若竹・第五十九号」発刊

二十四日

第一回「愛媛の神々」編纂委員会

〔長曾我部会長以下十名出席〕

年頭正式参拝

〔愛媛縣護國神社〕

〔長曾我部会長以下十一名参拝〕

第九回 役員会

〔国際ホテル松山 パールの間〕

臨時総会

〔長曾我部会長以下十二名出席〕

〔国際ホテル松山 パールの間〕

新年研修会

〔離宮の間〕

演題「危機管理対策を万全にしよう」

講師 BS21プライタルサービス

門田 洋子先生

根岸 穂子先生

〔十亀庁長以下御来賓四名御出席〕

〔長曾我部会長以下二十四名出席〕

〔長曾我部会長以下二十五名出席〕

新年互礼会

〔全 伊予の間〕

〔十亀庁長以下御来賓九名御出席〕

〔長曾我部会長以下二十五名出席〕

慰問神楽

〔新居浜市 朝日保育園〕

二月二十五日

〔長曾我部会長以下十四名参加〕

第一回「愛媛の神々」編纂委員会

〔石鎚神社〕

三月十三日

〔長曾我部会長以下十名出席〕

十四日

神道青年全国協議会 中央研修会

〔維新〕

立ち上がれ！現代の草莽の志士

第一講

〔幕末日本の人材教育〕

講師

志學館大學人間関係学部教授

鹿兒島大學名誉教授

原口 泉 先生

第二講

〔維新と感謝〕

講師

俳優・演出家・元自衛官

今井 雅之 先生

第三講

いま日本に迫りくる危機と自衛隊

忘れてはならない東日本大震災における自衛隊の関与

講師

軍事ジャーナリスト

井上 和彦 先生

〔長曾我部会長以下十六名出席〕

三月二十六日

第十回 役員会

三月三十一日

〔長曾我部会長以下十七名出席〕

四月 八日

〔愛媛の神々〕「再発足四十周年記念誌」刊行

平成二十四年度会計監査会

〔伊豫豆比古命神社〕

〔長曾我部会長以下四名出席〕

皆様方に御協力を賜り会務が遂行出来ました事に深謝致します

会長 長曾我部 信雄

愛媛県神道青年会 平成24年度一般会計歳入歳出決算書

歳入の部

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減(△減)	付 記
1 会 費	750,000	659,000	△ 91,000	年会費・定時総会々費・新年互礼会々費他
2 助 成 金	200,000	200,000	0	愛媛県神社庁より
3 寄 付 金	1,290,000	1,452,000	162,000	県内神職寄付金・諸事業援助金
4 雑 収 入	431	20,000	19,569	研修費返金
5 繰 越 金	609,569	609,569	0	平成23年度より
歳入合計	2,850,000	2,940,569	90,569	

歳出の部

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減(△減)	付 記
1 会 議 費	600,000	474,670	△ 125,330	定時総会・役員会・新年互礼会・地区協役員会・臨時総会・監査会他
2 研 修 教 化	800,000	717,749	△ 82,251	観月神楽・慰問神楽・新年研修会・各種研修参加助成他
3 事 業 費	200,000	160,000	△ 40,000	参拝啓発ポスター
4 広 報 費	300,000	288,606	△ 11,394	若竹58号/59号作製費及び発送費
5 事 務 費	120,000	77,785	△ 42,215	事務用品・寄付金其他振替手数料
6 備 品 費	10,000	0	△ 10,000	
7 旅 費	400,000	400,000	0	神青協総会・神青協役員旅費補助
8 慶 弔 費	50,000	50,000	0	慶弔金・電報代
9 分 担 費	280,000	276,000	△ 4,000	神青協及び地区協醸出金・各種友好団体年会費
10 交 通 費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑 支 出	10,000	0	△ 10,000	
12 予 備 費	30,000	0	△ 30,000	
歳出合計	2,850,000	2,494,810	△ 355,190	

歳入合計 ￥2,940,569 歳出合計 ￥2,494,810 差引残高 ￥445,759

平成25年4月8日 愛媛県神道青年会役員会提出

平成25年4月8日

上記の通り相違ない事を認めます

監 事 長管我部 昭一郎
監 事 十 亀 博 行

愛媛県神道青年会 平成25年度一般会計歳入歳出予算書(案)

歳入の部

自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付 記
1 会 費	750,000	750,000	0	年会費・定時総会々費・新年互礼会々費他
2 助 成 金	200,000	200,000	0	愛媛県神社庁より
3 寄 付 金	1,290,000	1,304,000	14,000	県内神職寄付金
4 雑 収 入	431	241	△ 190	預金利子他
5 繰 越 金	609,569	445,759	△ 163,810	平成24年度より
歳入合計	2,850,000	2,700,000	150,000	

歳出の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度決算額	増減(△減)	付 記
1 会 議 費	600,000	600,000	0	定時総会・役員会・新年互礼会・地区協役員会・監査会他
2 研 修 教 化	800,000	800,000	0	観月神楽・慰問神楽・新年研修会・各種研修参加助成他
3 事 業 費	200,000	200,000	0	参拝啓発ポスター
4 広 報 費	300,000	300,000	0	若竹60号/61号作製費及び発送費
5 事 務 費	120,000	120,000	0	事務用品・寄付金其他振替手数料
6 備 品 費	10,000	10,000	0	
7 旅 費	400,000	250,000	△ 150,000	神青協定時総会/神青協役員旅費補助
8 慶 弔 費	50,000	50,000	0	慶弔金・電報代
9 分 担 費	280,000	280,000	0	神青協及び地区協醸出金・各種友好団体年会費
10 交 通 費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑 支 出	10,000	10,000	0	
12 予 備 費	30,000	30,000	0	
歳出合計	2,850,000	2,700,000	△ 150,000	

歳入合計 ￥2,700,000 歳出合計 ￥2,700,000 差引残高 ￥0

平成25年4月11日 愛媛県神道青年会役員会提出

平成二十五年 活動計画

四月 八日	平成二十四年度会計監査会	【伊豫豆比古命神社】
十一月 十一日	第一回 役員会	【嚴島神社】
二十三日	神道青年全国協議会	
五月二十一日	第六十五回定例総会	【神社本庁】
五月三十日	第一回中国・四国地区合同会	【岡山県】
五月三十日	第二回 役員会	【国際ホテル松山】
六月 一日	第四十二回 定時総会	【全】
六月 五日	会報「若竹・第六十号」発刊	
	神道青年四国地区協議会	
六月 十九日	第一回役員会	【徳島県】
七月	第三回 役員会	【嚴島神社】
八月 十九日	第四回 役員会	
八月二十日	神道青年四国地区協議会	
八月二十七日	第十九回 定例総会並びに研修会	【高知県】
八月二十八日	神道青年全国協議会	
九月 十二日	平成二十五年 夏期セミナー	【神社本庁】
九月 十三日	神道青年四国地区協議会	【愛媛県】
九月下旬	第十六回 神道行法錬成会	【愛媛県】
	第二回 役員会	
	参拝啓発ポスター発送作業	【愛媛県神社庁】

九月下旬	第五回 役員会	【愛媛県神社庁】
九月	第三十一回 観月神楽の夕べ	
十月	第六回 役員会	
十一月二十五日	第七回 役員会	
十二月	三島森田尚烈士追悼四十三周年慰霊祭	【愛媛懸護國神社】
十二月	神道青年四国地区協議会	
全	第三回 役員会	【香川県】
全	第九回 親睦ボウリング大会	
一月 一日	会報「若竹・第六十一号」発刊	
一月	第八回 役員会	【国際ホテル松山】
一月	新年研修会・新年互礼会	【全】
二月	第九回 役員会	
三月 六日	神道青年全国協議会	
三月 七日	平成二十五年 中央研修会	【北海道】
三月	第十回 役員会	

●その他、役員会にて議案審議

※(日時未定) 慰問神楽

※(日時未定) 会員交流親睦会

※時局問題への即応

平成二十四年度 助成寄付御芳名

※順不同にて掲載させて頂いております

御助成

金 貳拾萬圓也

愛媛県神社庁殿

御寄付

【東予】

金 壹拾萬圓也

石鎚神社

十亀 興美 殿

金 伍萬圓也

大山祇神社

三島 喜徳 殿

金 參萬圓也

一宮神社

矢野 哲夫 殿

神社庁

新居支部 殿

金 貳萬圓也

吹揚神社

田窪 久 殿

金 壹萬伍仟圓也

今宮神社

佐藤伊都男 殿

石岡神社

越智 基晃 殿

金 壹萬圓也

三島神社

大西 元宣 殿

村山神社

榑田嘉津雄 殿

玉生八幡神社

平田 彰 殿

飯積神社

葛城 光彦 殿

伊曾乃神社

井上千賀司 殿

嘉母神社

石川雅司郎 殿

榑本神社

石川 漢見 殿

三嶋神社
橋新宮神社

堀川 泰規 殿
高橋 佳幹 殿

周敷神社

井上 初美 殿

福岡八幡神社

越智 義大 殿

熊野神社

田邊 捷 殿

荒木八幡大神

松本 恒夫 殿

高尾神社

玉井 忠素 殿

大井八幡大神社

櫛部 浄文 殿

綾延神社

森 正康 殿

白山神社

大岡 益子 殿

萩岡神社

大岡 忠臣 殿

三嶋神社

越智 静治 殿

高浜八幡神社

龜山 和磨 殿

三島神社

垂水 隆昌 殿

宇佐八幡神社

松木 正述 殿

須賀神社

藤原 裕博 殿

大島八幡神社

矢野 秀綱 殿

大浜八幡大神社

桧垣 杜次 殿

姫坂神社

沼崎 守文 殿

多伎神社

沼崎 守文 殿

生名八幡神社

西村 純子 殿

別宮大山祇神社

高田 康成 殿

磐座八幡大神社

藤原 修次 殿

金 八仟圓也

大西神社

及川 徹也 殿

金 伍仟圓也

喜多浦八幡大神神社

馬越 祥穂 殿

八幡大神社

安藤 潔 殿

奈良原神社
八幡宮

竹之内紀久江殿
合田 正士 殿

瀨上神社

宮本 基 殿

橋八幡大神社

馬越 將文 殿

保内八幡神社

中島佳代子 殿

盛八幡大神社

高橋 幸意 殿

金 參仟圓也

土居神社

矢野耕一郎 殿

西條神社

塩出 崇 殿

弓削神社

川原啓三郎 殿

【中予】

金 壹拾萬圓也

伊豫豆比古命神社

長曾我部延昭 殿

金 伍萬圓也

愛媛縣護國神社

小川 純生 殿

金 壹萬圓也

桑原八幡神社

石丸 剛司 殿

還熊八幡神社

玉井 次明 殿

雄郡神社

高市 誠司 殿

正八幡神社

重松 讓 殿

忽那島八幡宮

大宮 信篤 殿

勝岡八幡神社

武智 輝子 殿

高繩神社

正岡 重岩 殿

波賀部神社

武智 彰宏 殿

井手神社

横山 貞子 殿

日吉神社

都子野清彦 殿

湊三嶋大明神社

渡部 定昭 殿

朝日八幡神社	田内 一弘 殿
日尾八幡神社	三輪田 純 殿
八幡神社	小野 哲也 殿
伊豫稻荷神社	星野 暢宏 殿
金・伍阡圓也	
神社庁	松山支部 忽那島分会 殿
廣田神社	武智 盛明 殿
住吉神社	辻田 正明 殿
若宮八幡神社	三好 捷三 殿
金刀比羅神社	山下 幸志 殿
三島神社	高市 俊次 殿
徳威三嶋宮	別府 頼房 殿
阿沼美神社	大内 將通 殿
伊曾能神社	武市 盛幸 殿
大宮八幡神社	眞鍋 和敏 殿
築島神社	渡部 正己 殿
三島神社	玉井 貞臣 殿
八坂神社	都築 芳憲 殿
新田神社	都築 芳憲 殿
立石神社	都築 芳憲 殿
新田八幡神社	都築 芳憲 殿
高家八幡神社	都子野 清明 殿
五柱神社	森 東洋司 殿
三島神社	武智 仁志 殿
金・參阡圓也	
天満神社	新藤 昭重 殿

金・七萬圓也	和靈神社	三輪田元亮 殿
金・參萬圓也	八幡神社	常磐井守興 殿
神社庁		宇和支部 殿
金・貳萬圓也	神社庁	八西支部 八幡浜分会 殿
三島神社		山中 清之 殿
金・壹萬圓也	神社庁	宇和島支部 宇和島分会 殿
神社庁		南宇和郡支部 殿
神社大明神社	森本 隆夫 殿	
大元神社	井上 正博 殿	
三島神社	菊地 宣之 殿	
三嶋神社	和氣 利雄 殿	
黄幡神社	青木 武司 殿	
賀茂神社	上甲 一則 殿	
金・伍阡圓也		末光 剛 殿
宗合神社		宮田 昭 殿
春日神社		高市 節子 殿
稻荷神社		大川 實 殿
金・參阡圓也		湯嶋天神社
大本神社		菊池 國興 殿
金・壹阡圓也		

第三十回観月神楽の夕べ 御祝
金・壹萬圓也

伊豫豆比古命神社	長曾我部延昭 殿
愛媛県神社庁	
三島森田尚烈士追悼四十二周年慰霊祭玉串料	
金・壹萬圓也	
愛媛縣護國神社	小川 純生 殿
愛媛祖國と青年の会	越智 敏雄 殿
御縞こずえ	
新年互礼会 御祝	
金・貳萬圓也	
石鎚神社	十亀 興美 殿
八幡神社	清家 貞宏 殿
金・壹萬圓也	
伊曾乃神社	愛媛県神社庁 殿
巖島神社	井上千賀司 殿
高忍日賣神社	柳原 宰 殿
愛媛縣護國神社	後藤 正宜 殿
伊豫豆比古命神社	小川 純生 殿
朝日八幡神社	眞鍋 豊孝 殿
八幡神社	田内 一弘 殿
三島神社	小野 哲也 殿
金・伍阡圓也	
愛媛県女子神職会	玉井 秀行 殿

御賛同の上御寄付を賜り深謝致します
会長 長曾我部 信弥

再発足四十周年記念事業 愛媛の神々 発刊回顧録

古くは「伊豫國」と称していた我がふるさととは、明治六年の太政官布告により「愛媛」と改名されました。この名は、

古事記上巻の国生みの「故れ伊豫國は愛比賣と謂ひ」に由来するもので、四十七都道府県で唯一、神名がもととなり名付けられた地名であります。このように、神話の時代から登場する愛媛は、古くから瀬戸内の温暖な気候風土と海川山野の恵み豊かな恩恵をうけ、そこに住む人々は共にたすけ合い、支え合いながら社会的共同生活を送り、地域の伝統文化を育んできました。その核ともいえるのが、ムラの鎮守さまでないでしょうか。

昨今の社会情勢の変化は、こうした社会的共同生活や地域の伝統文化と引換に成長してきたと言っても過言ではなく、



田園は宅地へと姿を変え、漁村山村からは子供たちの声が消え、懐かしい郷里

の記憶も消えようとしています。また、里山では自然の生態系が崩壊し、鳥獣被害が多発するところとなり、より一層過疎化が進み、ムラの鎮守さまを護持することも儘ならず、その数は年々増加の一途を辿っています。

そこで今回、少しでも郷里の足跡や脈々と受け継がれてきた鎮守さまへの思いを残し、広く県内外の方々にご覧戴き、護持運営の一助となればとの願いを籠めて発刊致しましたのが当会再発足四十周年記念誌の「愛媛の神々」であります。

作業開始の平成二十三年十一月の時点では、社殿を構える神社から路傍の祠に至るまで、県下の全てを掲載する予定で着手しました。ところが、所在や地縁関係などが不明で把握が困難であったり、仏式祭典を営んでいるところがあつたりと、初動段階で数々の問題点が浮上し、早くも作業は暗礁に乗り上げてしまいました。そこで、協議を重ねた末に翌年の三月に新たな方針を

- 一、地域住民や御祭神の縁者によって護持されるなどの地縁関係および、所在が明確であること。
- 二、不特定者の参詣に支障を来たさないものであること。
- 三、会社や団体等が特定の御神徳を祈

願して建立した所謂「企業社」でないこと。

四、本庁所属の神職によって、毎年一回以上の祭典奉仕があること。

五、社殿の写真掲載すること。
と策定し、さらに、神社の記録が少ない未登記神社に絞って掲載することで統一化を図りました。

翌月から本格的な作業へ入り、該当する神社を調査するため、県下の本務官司様宛に調査依頼を一齐にお願いし、次いで、効率よく作業を進めるための編纂担当者や支部単位ごとに配置し、想定される問題点の対処、解決方法を話し合い、組織体制を整え、資料整理や現地取材などへ移行したのは、六月のことでありました。

十二月からは校正の段階へと進み、ここでは、掲載記事を支部単位ごとから市町ごとに再編させ、一般の方に見易い掲載方法となるような工夫を施し、完成に向けた纏めへと取り掛かりました。その後、凡そ三ヶ月間をかけ、個別・全体校正を何度も行い、発刊に至りました。
掌握することの容易でない地域の神々を題材として取り上げ後世に遺すということについては、その責任が重大であったと思います。幸いに、多くの方々のご

支援を賜り、一―三頁に六二七社を掲載でき、公立図書館へも寄贈させて戴くことができました。

これをきっかけに、各地の鎮守さまを取り上げた冊子が数多く発刊され、子々孫々とふるさとを残し、伝えていく活動が高まることを祈念するものであります。

(編集委員長 高橋政裕)

※ご希望の方には差し上げております。

詳細は事務局まで(数に限りがあります)。

青年会御卒業

定時総会に於いて、会則により卒会の年を迎えられました先輩方をご紹介します。

石鎚神社 榎宜(元会長・神青協元理事)

十亀 博行様

伊豫豆比古命神社 榎宜(元監事・神青協元監事)

長曾我部昭一郎様

石戸八幡神社 榎宜

和田 義樹様

村山神社 榎宜

榎田 孝寛様

橋新宮神社 榎宜

高橋 信史様

湯神社 榎宜

鳥谷 長敦様

船越和氣比売神社 榎宜

河本 大輔様

天満神社 宮司

重松 修様

安藤神社 榎宜

水口 陽介様

永年に亘り当会の活動にご尽力賜りまして誠に有難う御座いました。会員一同感謝申し上げます。

今後尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に益々のご活躍をご祈念申し上げます。

神道青年四国地区協議会 行事案内

○第十九回定例総会・研修会

平成二十五年八月十九日(月・先勝)

二十日(火・友引)

【会場】ザ・クラウンパレス新阪急高知

○第十六回神道行法錬成会

平成二十五年九月十二日(木・先負)

【会場】石鎚神社(西条市西田鎮座)

【講師】神道行法錬成会 道彦

佐藤 豊 先生

(三島神社 宮司)

神道行法錬成会 助彦

後藤 雅彦 先生

(伊豫豆比古命神社 榎宜)

詳細につきましては、HP等にもお知らせして参ります。奮ってご参加下さい。

神道青年全国協議会

中央研修会ご案内

平成二十五年年度神道青年全国協議会中央研修会が左記の日時に執り行われます。

【日時】

平成二十六年三月六日(木・先勝)

七日(金・友引)

【主管・担当】北海道神道青年協議会

本号に、平成二十四年度の中央研修会報告が掲載されていますが、中央研修会は、著名な講師の先生方による講演が拝聴できる他、志を同じくする全国の同志と出会い、親睦を深めることができる貴重な機会です。ぜひご参加下さい。

※申し込みは事務局まで

締め切りは一月末日です。